

## 知的財産政策ビジョン検討WG第4回における主な指摘と対応方針（案）

知的財産戦略推進事務局

主な指摘	対応方針（案）
○はじめに	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産政策ビジョンは10年先を見据えたビジョンではあるが、10年間変更しないということではなく、適宜見直しを行う必要があるということ。「はじめに」のところなどに記載すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめにの部分に追記する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グローバル知財システムの構築」のパートは、アジアにフォーカスし過ぎているように思える。先進国などと協力しつつグローバルな知財のルール作りを日本がリードしていくということについても打ち出すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グローバル知財システムの構築」の課題の部分で既に記述しているが、加えて、はじめにの問題意識の中でも整理する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド上に存在するコンテンツというものが今後ビジネスチャンスを持つようになるため、コンテンツ自体のプラットフォーム化が進んでいるとの認識に立った上での施策展開が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめにの問題意識の中で整理する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいビジネスモデルがどんどん創出できるような柔軟な制度設計が何なのかしっかり考えていくことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめにの問題意識の中で整理する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「マルチスクリーン」という文言があるが、定義の曖昧な言葉なので、「多様な表示デバイス」とした方が明確。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部分を修文する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・③(デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備)、④(コンテンツを中心としたソフトパワーの強化)にベンチャーに関する記述が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部分を修文する方向で検討する。</li> </ul>
○競争力関連	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グローバル知財システムの構築」のパートにも、ACTAの活用に関する記載を入れるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知財活動の円滑化に向けた通商関連協定の活用」の課題の部分で修文する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産学官連携機能の強化」のパートにおいても、官民連携の知財ファンドの活用について触れるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産学官連携の機能の強化」の現状の部分で修文する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界で戦えるグローバル知財人財の育成」という見出しがあるが、「戦える」よりも「活躍できる」などの文言を用いるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指摘を踏まえて該当部分を修文する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中小・ベンチャー企業に対する料金減免サービス拡充」のパートの【取り組むべき施策】のところには「中小・ベンチャー企業にとって更に利用しやすく」という記載があるが、「更に」という文言を削除すべき。また、シンプルで効果的な減免制度にするということをはっきりと打ち出すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指摘を踏まえて関係府省と対応について検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パテントボックス制度について、検討するという程度は記載すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指摘を踏まえて関係府省と対応について検討する。</li> </ul>
<p>○コンテンツ関連</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドネットワーク、ソーシャルサービスといったメディアと、UGC、公共データ、教育コンテンツといった著作物系とで、混乱しているので整理することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部分を整理する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなプラットフォームの発生や新たに生まれるコンテンツなどを見据えた戦略が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部分の現状と課題を修文する方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利処理について、モデル契約のようなものを作り、コンセンサスを作りやすくし、輸出展開、二次利用をしやすくすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利処置の円滑化に関する施策を記述しているが、今後の課題として、関係府省と対応について検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子出版などで縦書きの電子化を支えるとともに、国際標準化を進めることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産推進計画2012で、電子書籍の本格的な市場形成に向け、EPUB3.0の我が国への普及促進を進める旨記載されており、引き続き同取組を進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォーム事業者が日本の文化を拒否し掲載しないことがあるため、日本の健全な文化の育成を阻害することが無いよう働きかけをすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産推進計画2012で、プラットフォームの環境整備に向け、コンテンツの供給や流通に関する競争政策上の問題点について、情報収集や競争の実態を注視する旨記載されており、引き続き同取組を進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的コンテンツのアーカイブ化だけではなく、LINE、着メロ、ソーシャルゲームといったアーカイブ化が困難な記録を何らかの形で残すことが、日本にとっても重要な資料になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題として、関係府省と対応について検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACTAをTPPで取り上げるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TPPの協議の進捗状況を踏まえ、関係府省と対応について検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化を受け入れる市場の育成と、現地における日本文化の指導者となる教育者の育成が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係府省と、関連施策による実施の可能性について検討する。</li> </ul>